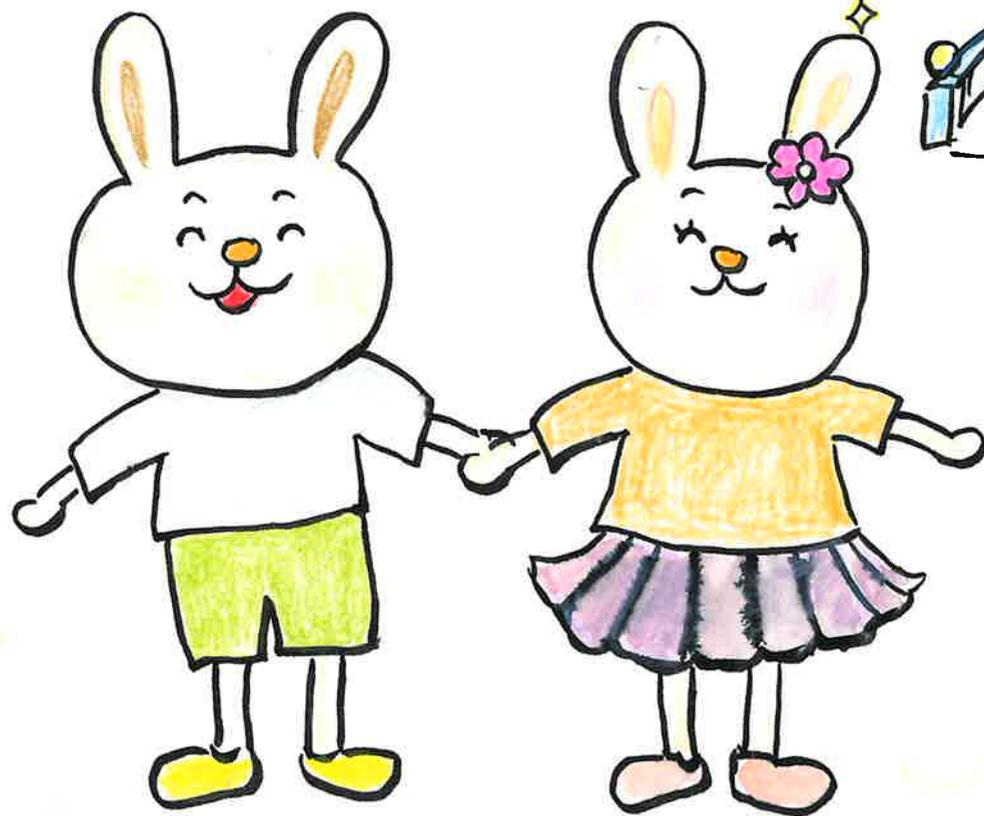


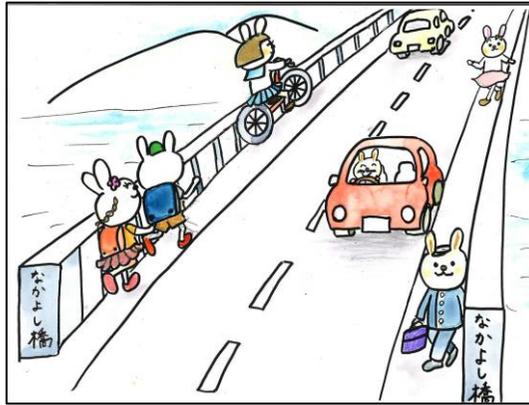
なかよし橋



製作 うららの会
絵 池田 華子



『なかよし橋』 始まり 始まり



①

うさぎのぴよん太君の住む町は、みんな仲良しで、平和な町です。

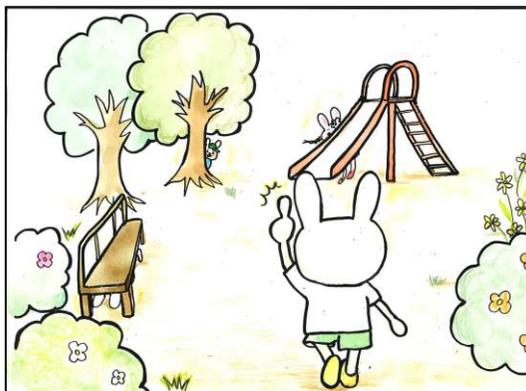
町には大きな川が流れ、川には「なかよし橋」が架かっています。

大人達は、仕事に行く時にもスーパーに買い物に行く時にも渡ります。

子ども達は、学校に行く時にもおもちゃ屋さんに行く時にも渡ります。

家族でむこう町の遊園地に行く時も渡ります。

「なかよし橋」は、町のみんなが毎日通る大切な橋です。



②

1年生のぴよん太君は、学校から帰るといつもなかよし橋を渡って公園の広場へ遊びに行きます。マー君、ユーちゃん、ターちゃん達と一緒に遊びます。

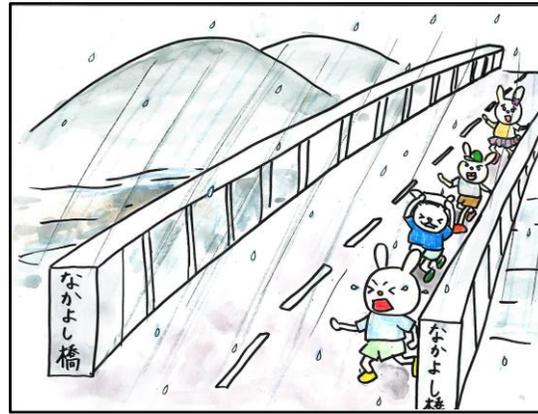
今日はみんなでかくれんぼです。木の陰やすべり台の向こうに隠れます。

ぴよん太君が オニになりました。ぴよん太君は「1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10」と、大きな声で数えてから、あちこち探し回りました。

そーっと木の陰に近づきました。「あ、マー君だ！」木の陰に見えます！

「マー君、見い—つけた！」マー君を一番に見つけました。

その次は、滑り台の向こうのユーちゃん、ベンチの下のターちゃんも。次々にみんなを見つけてきました。



③

「次のオニは、マー君だね！」「さあ、隠れよう！」

ところが、その頃から雨が降り出しました。

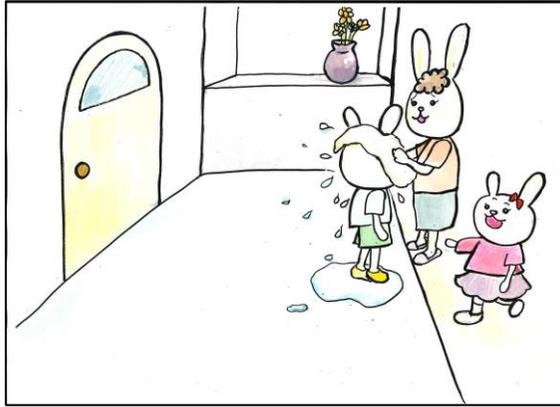
ポツリ、ポツリ、ポツリ、……………、ザー、ザー、ザーザー。

だんだんたくさん降って来ました。止みそうにありません。

「もう帰ろう」みんなは、かくれんぼをするのをあきらめて帰ることにしました。

傘がないので急ぎ足で帰りました。みんなの家は、なかよし橋
を渡ってすぐのところです。

「バイバ～イ！ またあしたね！」雨で頭も身体もびっしょり、ぬれました。



④

ぴよん太君が家の近くまで帰ると、妹のみみちゃんが玄関で待っていていました。

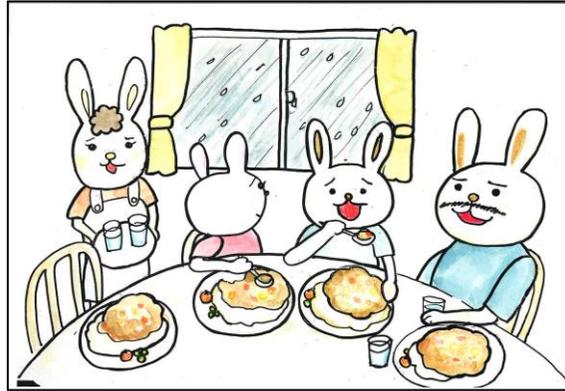
「あ、お兄ちゃんだあ～!! びっしょぬれだあ～!! お母さーん、お兄ちゃんが帰ってきたよおー!!」家の中にいるお母さんに大声で呼びかけました。

お母さんが急いで出てきました。

「まあー ぴよん太！ お帰り！ 遅いので心配していたのよ。

そんなにびしょぬれで!! みんなは大丈夫だったの？」

お母さんは、そう言いながら、ぬれた頭をタオルでやさしく拭いてくれました。

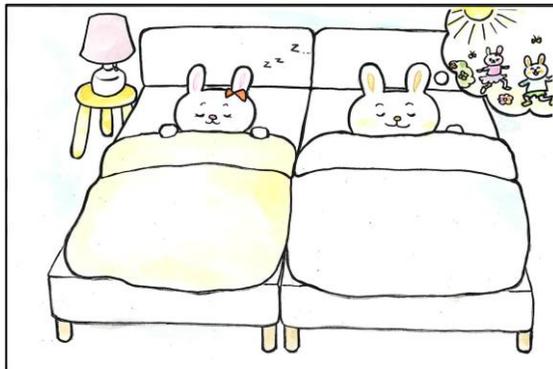


⑤

しばらくして、お父さんも仕事から帰ってきました。

お父さんは、「今日の雨は、まだまだたくさん降るそうだよ、ラジオで言ったよ」と、言いました。

雨は、夕ご飯の時も、ピョン太君とみみちゃんが寝るときもザーザーと降り続けていました。



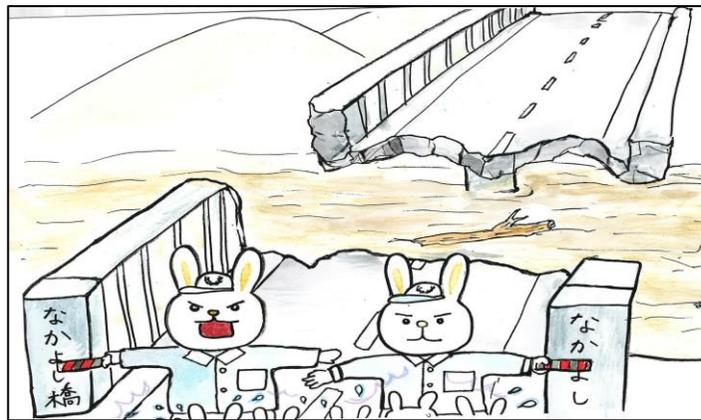
⑥

「お兄ちゃん、あした雨が止んだら、みみも公園に遊びに行ってもいい？」

「うん、いいよ。みんなでかくれんぼの続きをしよう」

「わーい、うれしいな ♪」

4 歳のみみちゃんは、大はしゃぎをしています。ふたりは、楽しい夢を見ながら眠りました。



⑦

次の日のことです。朝起きてびっくり！

なかよし橋が大雨で壊れてしまって、渡れなくなっているのです。

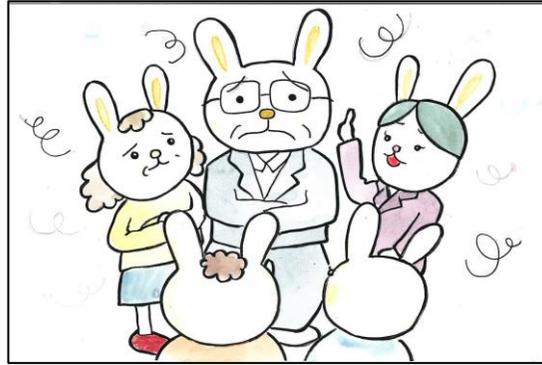
近所みんなが見に来ています。

うさぎ小学校の校長先生も心配して見に来ています。

水かさが増しているので、川に近寄るのは大変危険。

車はもちろん通れません。

ぴよん太君たちも学校には行けません。

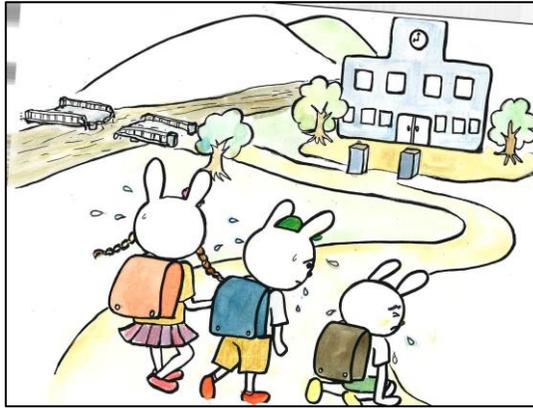


⑧

「こまった ((+_+)) こまった」

「どうしたら、いいでしょうねえ」

みんなは、校長先生と一緒に長い間、相談しました。



⑨

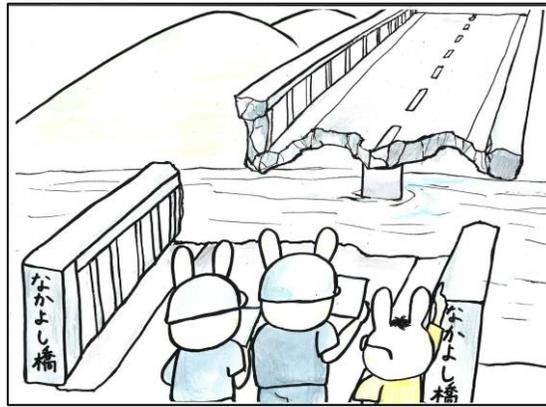
みんなの相談で、ぴよん太君たちは、次の日から、ず〜と向こうの隣町まで遠回りして登校することになりました。

いつもより1時間も早起して行かなくてはなりません。

行きも帰りも、1時間ずつ、てくてく、てくてく歩くのです。

次の日もその次の日も、てくてく、てくてく……

みんなは、家に着いた頃には、もうくたくたです。



⑩

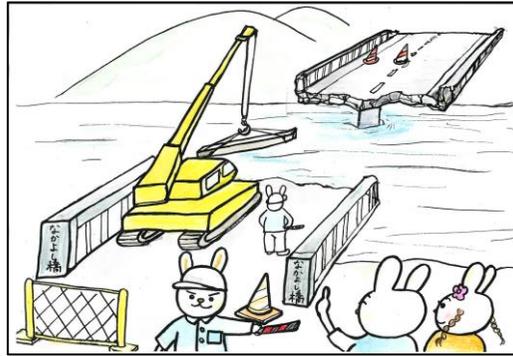
大水(おおみず)がすっかり引いたある日、うさぎ市役所の係員が、壊れた橋を調べにやって来ました。うさぎ町のみんなも集まりました。そして、話し合いました。

「車が通れないのが不便だね。」

「子どもたちも、とっても困っています。何とか助けてやりましょう。」

「なかよし橋を修理しましょうよ。みんなで集めているお金を使って、工事の会社から修理に来てもらいましょう」「大水(おおみず)でも壊れない丈夫な橋を作ってもらいましょう。」

「それがいい、それがいい」「そうしましょう」みんなは、大賛成でした。

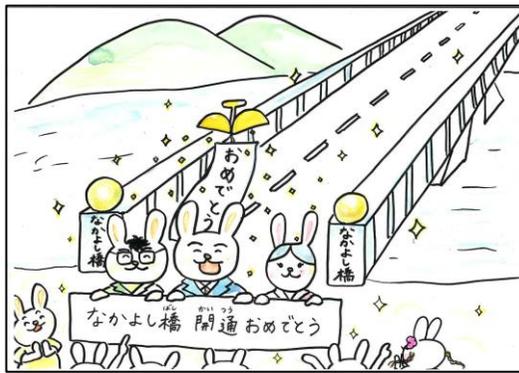


⑪

さっそく、橋の修理工事が始まりました。

毎日、ドンドン、ゴーンゴーンと、大きな音がして、工事が進みました、

町のみんなは、橋の完成をとても楽しみに待っていました。

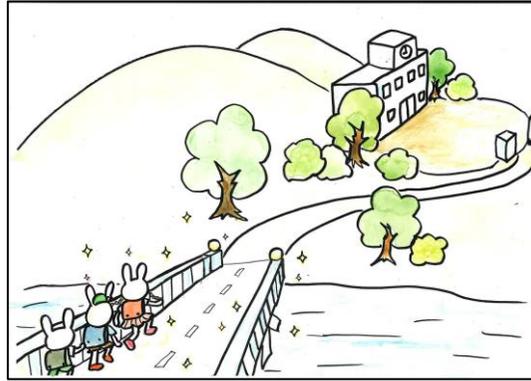


⑫

なかよし橋の修理がすっかり終わりました。とても丈夫で綺麗な橋が完成しました。

ようやくみんなが安心して歩いて行き来できるようになりました。

車も安全に通れるようになりました。



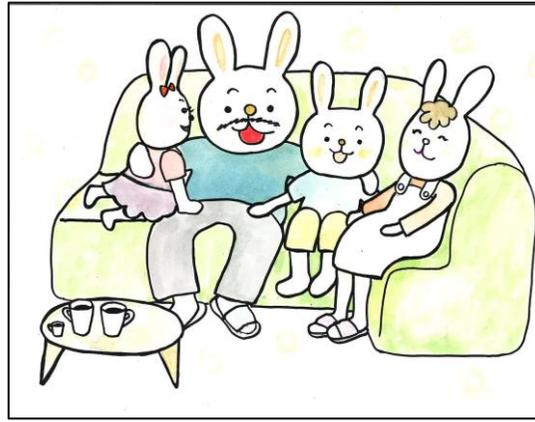
⑬

そして、明日からぴよん太君は、マー君と、ユーちゃんと、ターちゃんと一緒に橋を渡って学校に行けることになりました。

みんなと元気に勉強できるのが、楽しみです。

そして、公園の広場で、マー君やユーちゃんやターちゃん、それに、妹のみみちゃんも一緒に、かくれんぼをしたり、鬼ごっこをしたりして遊べるのです。

ウキウキ ♪ ワクワク ♪ うれしくてたまりません。



⑭

夕食が終わった後、お父さんが話してくれました。

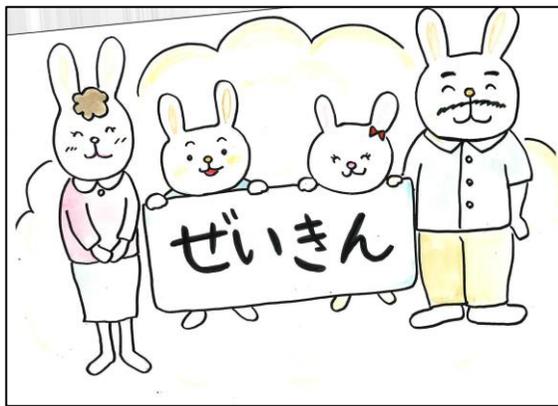
「ぴよん太、みみ、よかったね。あんな風にりっぱな橋ができたのは、町みんなが協力し合ったからなんだよ。

それはね、これまで、みんなが少しずつ出し合っているお金があったから修理ができたんだ。

みんなで使うものは、みんなが少しずつお金を出し合って、買ったり作ったりしているんだ。もちろんお父さんやお母さんも出しているんだよ。

そうして集めたお金を【税金】と言うんだ。」

ぴよん太君とみみちゃんは、お父さんの話を一生懸命聞きました。



⑮

【税金】って初めて聞く言葉です。

ぴよん太君は、「へー、【税金】か。税金ってみんなから集めてみんなのために使う大切なお金のことなんだな。」と、うなずきました。

みみちゃんが、「ぜーきん ♪ ぜーきん ♪ 」と言いながら飛び跳ねると、ぴよん太君も一緒に「ぜいきん！ ぜいきん！」と、何度も繰り返していました。

お父さんとお母さんは、二人の様子を見てにっこりと微笑み合っていました。

なかよし橋 おしまい